働き盛りから熱中できる趣味――老後の生活に彩り添える生きがいに

やがて訪れる老後のために、とは言わないまでも、中年時代の働き盛りから音楽など熱中できる仕事以外の趣味を持つことはいいことだ。結果として、時間に比較的余裕がある老後の生活に彩りを添え、生きがいにもつながる。高齢者の生活ををサポートするアドバイザー役として現役世代も活躍している。ライフスタイルが多様化するなか、そんな中年時代の過ごし方は、心に豊かさをもたらしてくれる。【小原綾子】

ジャズバンド…東海林明さん

負担かけず楽しく

黄色いスーツに蝶ネクタイ。ステージ上で「格好良く」決めたメンバーがリズムにのってサックスやトロンボーンを演奏する。どこかで聞いたことがある曲だ。客席からも自然と拍手が起こる。アマチュアジャズビッグバンド「ニューノーツ・オーケストラ」は川口を中心に活動している。

メンバーは40代、50代を中心に18人。製菓会社の研究員や宅急便の運転手、薬剤師など職業はさまざまだ。

「うまいへたは考えてないんです」。リーダーで川口市の県職員、東海林明さん(53)は言う。「グレンミラーの映画を見て、手弁当でもいいから演奏したい」。それが設立の理由だ。映画「グレンミラー物語」の世界にあこがれ、サックスでスウィングする。

バンドの歴史は古い。69年、市立川口高校のOBが「ヤングオールスターズ」として結成した。東海林さんも高校3年生のとき参加した。3年後に現在のバンド名になり、障害者福祉施設や特別養護老人ホームの慰問演奏などほぼ月1回、続けている。「月1回以上は(予定を)入れません。練習が負担になると楽しくなくなってしまいますから」。それが長続きの秘けつらしい。

バンド編成はサックス5人、トロンボーン4人、トランペット4人、リズムセクション5人。目立つメロディー部分は、テクニックのあるメンバーでなく、練習の参加率が高い人に担当してもらう。東海林さんは「技術ではついていけない人が出る。そうなると落ちこぼれも出るし会として続かない」と話す。

メンバーは仕事があるから、月2回の練習の開始時間、参加人数はいつもばらばらだ。

「遊びで楽しいジャズ」がモットーだ。「練習が終われば飲みに行かずにすぐに帰る。家族と過ごす時間をつぶしちゃいけないですから」。家族のだんらんも大切にしジャズと向き合う。

昨年、バンドは結成35周年を迎え、特別演奏会を川口市民会館で開いた。曲はグレンミラー物語から「イン・ザ・ムード」「真珠の首飾り」「タキシード・ジャンクション」など。12月には特別養護老人ホーム「紫水苑」（同市石神）でのクリスマスパーティーを予定している。

これまでの活動が認められ、バンドは99年に県知事表彰を受け、02年は同市社会福祉大会会長表彰も受賞した。

東海林さんは「もう楽器は手放せない。メンバーはみんなジャズ好きばかり。ジャズしかないですよ」と音楽のある楽しいライフスタイルを語る。

コンサートごとに衣装も変え本格的な演奏で楽しませる「ニューノーツ・オーケストラ」のメンバー（前列左が東海林明さん）